

「Inter BEE2023」 フォトレポート スペシャル

百聞は一見にしかず。「Inter BEE」をはじめとする各種展示会において、出展各社の最たる思いのひとつは、すべからく「実際に見て、体験してほしい」ということだろう。ここでは、とりわけ直接ブースに足を運び、「見ること、体験すること」で良さが伝わりやすい製品を2点ほど、紹介する。

【他社様 掲載箇所】

●アトラクター×関西テレビソフトウェア テレビ電波とブロックチェーンによる超信頼性サービス

アトラクター／構造計画研究所の共同ブースでは、テレビ放送波を活用したさまざまな情報配信サービスの形を提案。アトラクターが開発した「IPDC(IPパケット方式)送出システム」を用いて防災行政無線などを届ける仕組みが紹介されていたが、とりわけ注目を集めたのがその発展形「テレビ電波+ブロックチェーン超信頼性サービス」だ。デジタルデータをIPDCで放送波に重畳して一斉配信する仕組みは、極めて信頼性が高い仕組みとして耐災害性を評価されており、前述した防災行政無線など一部地域で導入が開始。放送局も行政も新たなインフラを敷設する必要がなく、放送波という「改ざんできない波」をトリガーに使っている点も強みとなっている。

関西テレビソフトウェアと共同で進めている最新の取り組みは、ブロックチェーンの分散ネットワーク間で検証に利用されているブロックヘッダ情報をIPDCで放送波重畳して配信することで、被災時などインターネット通信が困難な受信エリア帯において高信頼性の公的認証を行えるようになる、というもの。受信した証明書データを特定の場所（避難所など）で照合することで、オフライン環境下でも安定した公的認証を実現できる。

「被災地における個人のマイナンバー認証、オフライン決済などはもとより、被災地支援のボランティア認証や重機利用許可証明、災害情報として避難所掲示板など、通信が使えない状況でさまざまな認証が行えます」（アトラクター）。

安定した送信が可能で輻輳もなく、途中で改ざんできないためセキュリティも高い。ネットの有用性が評価されがちな現代において、放送波の復権、そして次世代に向けた新たな活用策として、今回の展示においても高い評価を受けていた。



テレビ電波+ブロックチェーン
超信頼性サービス